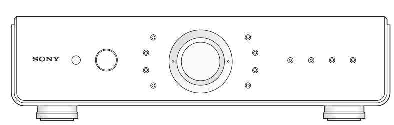
SONY

2-653-181-05(1)

ステレオ・デジタル・アンプ

TA-DR1a



取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

主な特長

TA-DR1aは、スーパーオーディオCD／CDなどに代表されるデジタルソースが主流となった音楽シーンのために、フルデジタル構成による音質向上を図って開発されたステレオ・デジタル・アンプです。

■ ハイスピードパワーMOS-FETを高速化

デジタルアンプの最終音質に非常に重要な役割を持つハイスピードパワーMOS-FETを、さらに高速化しました。

■ リスニングポジションからアンプのボリュームを微調整するリモコンを付属

本体で調節したボリューム位置を、リモコンで+/- 6 dBの微調整が可能です。ボリュームつまみ脇のLED表示で、元の位置から上がっているか下がっているか確認できます。ソニー製CDプレーヤーの基本操作も行えます。

■ 外部クロック入力

外部のクロック機器（44.1 kHz）を接続し、本機を動作させることができます。

■ i.LINK入力にH.A.T.S.機能

H.A.T.S. 機能を使うことにより、i.LINKから入力されたデジタルオーディオ信号を一時的にバッファに蓄え、信号に合わせたクロックでタイミングよくデコードできるので、転送時に生じるジッターを低減できます。

■ フルデジタル処理を実現した「32bit S-Master PRO」デバイス

S-Master（ストリームマスターデジタルアンプ）は、入力信号をフルデジタルで処理し、スピーカーを直接駆動できるデバイスです。信号をスピーカーに出力する直前までデジタルで処理するため、極めてロスの少ない伝送が可能となっています。また、高い時間軸精度を保った信号を生成できるため、アンプの1つの理想であるノンフィードバック構成を実現しています。

■ リニアリティに優れたハイパワー出力

S-Masterは、理論値で電力効率90%を達成する高効率を誇ります。そのため大出力を取り出すことが容易となり、また、音量が上がっても発熱による音質への影響を最小限にとどめることができます。
TA-DR1aでは8Ω時150W＋150W、4Ω時300W＋300Wと、負荷インピーダンスに対してリニアなハイパワー出力を得ています。

■ スーパーオーディオCDのDSD信号をデジタルのまま入力できるi.LINKデジタル入力

本機のi.LINKデジタル入力は、スーパーオーディオCDの2チャンネルDSD信号と、CDのPCMデジタル信号が入力できます。

■ オーディオシステムの発展をサポートする6系統のPCMデジタル入力

i.LINKデジタル入力の他に、光（1系統）、バランス（1系統）、同軸（4系統）の計6系統のPCMデジタル入力を備え、多彩なデジタルソースに対応しています。各入力端子には、96kHz/24bitのPCMデジタル信号も入力できます。
同軸の1系統はBNC端子を採用し、より幅広い高級機器と直接接続が可能です。

■ 内外振動の悪影響を低減する高剛性シャーシ

シャーシは、肉厚のアルミ材を採用し、内部共振を抑え、外部からの振動の影響も遮断します。

■ 音質を吟味して採用した大型トロイダル電源トランス

トロイダル電源トランスはドーナツ状のコアに太い銅線を巻いた構造で、一般の電源トランスに比べて変換効率が極めて高いのが特長です。TA-DR1aでは大容量、大型トロイダル電源トランスを採用し、瞬時電流供給能力に優れた余裕のある電源部を構成しています。

TA-DR1aはソニーが培ってきた技術を集約し、これら回路、デバイス、構造の各々において入念な吟味を重ねました。フルデジタルが実現した、臨場感あふれる音楽再生をお楽しみください。

目次

接続

各部の名前と基本操作

その他

この取扱説明書の使いかた

- 本機の機能を充分にお使いいただくために、使う前に必ず「接続」（5～11ページ）をご覧ください。
- この取扱説明書では、主に本体での操作のしかたを説明しています。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。

💡 知っていると便利な情報です。

接続

この章では、お手持ちのオーディオ機器と本機の接続のしかたを説明します。接続する前に必ずお読みください。

付属品を確認する

次の付属品がそろっていることを確認してください。

- 電源コード（1）
- 電源プラグアダプター（1）
- リモコン（1）
- ソニーリチウム電池CR2025（リモコンに装着済み）（1）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- 安全のために（1）
- 保証書（1）

以上の付属品がそろっていないときは、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。

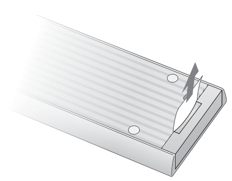
付属の電源コードについて

付属の電源コードは本機専用です。他の電気機器では使用できません。

本機には、オーディオ接続コード、デジタル接続コード、スピーカーコードは付属していません。別途、お買い求めください。

リモコンをお使いになる前に

裏面下部の絶縁シートを引き抜いてください。これで、リモコンをお使いいただける状態になります。



接続時のご注意

- 電源を必ず切ってから接続してください。
- すべての接続が完了するまで、電源コードは接続しないでください。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因となります。

ANALOG IN端子に接続する

スーパーオーディオCDプレーヤーやCDプレーヤーなどのアナログライン出力端子と接続します。
別売りのオーディオ接続コードを使います。
接続コードの白いプラグはL端子へ、赤いプラグはR端子へ接続します。

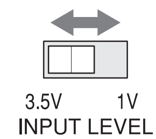
オーディオ接続コード（別売り）

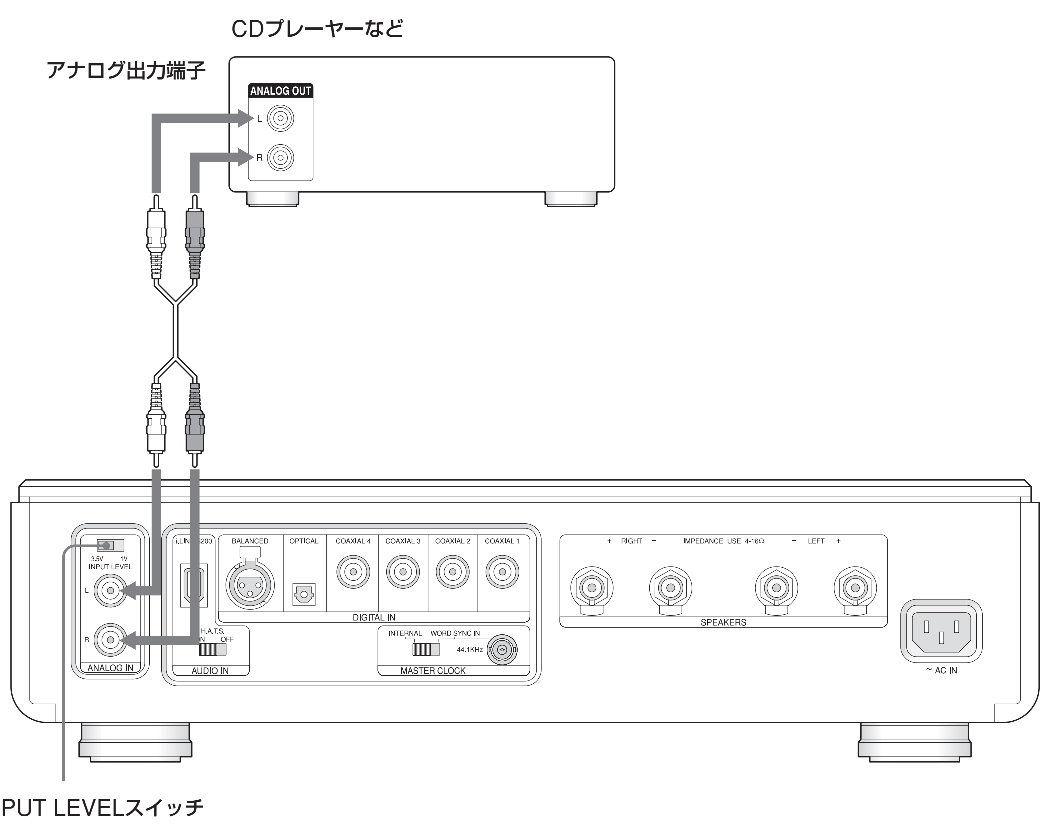


入力感度を切り換える

接続する機器の出力信号レベルに応じて、入力感度の切り換えが必要です。
INPUT LEVELスイッチをスライドさせて切り換えます。
初期状態では3.5Vに設定されています。

3.5V	スーパーオーディオCDプレーヤー、CDプレーヤーなどのアナログライン出力の機器を接続したとき
1V	出力レベルの低い信号を接続したとき



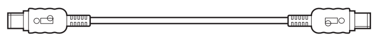


DIGITAL IN端子に接続する

i.LINK端子に接続する

本機のi.LINK端子は6ピンです。

i.LINKケーブル（別売り）



ご注意

- 本機のi.LINK端子は、i.LINK端子を備えたソニー製スーパーオーディオCDプレーヤーSCD-DR1に対応しています。その他の機器とi.LINK接続した場合は正常に動作しないことがあります。
  また映像信号を扱う機器、PC関連機器、他のAVアンプとは接続できません。
- i.LINK表記のないIEEE1394関連機器のオーディオ信号は受信できません。
- 他社のi.LINKオーディオ出力付きDVDプレーヤー、スーパーオーディオCD/CDプレーヤーと接続した場合の動作については保証していません。
- 本機にマルチチャンネルの信号を入力しても音声は出力されません。
  スーパーオーディオCDプレーヤーのマルチチャンネル／2チャンネル切り換えを2チャンネル優先に設定してください。
- i.LINK端子に金属が触れるとショートし、接続した機器にトラブルが生じる場合があります。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は誤動作の原因となります。
- 本機が対応している信号については、18ページをご覧ください。本機が対応していない信号（DV、MICROMVやMPEG-TSなど）は扱うことができません。
- i.LINK対応機器の中には、コピー・プロテクション技術に対応し、暗号化した信号を扱う機器があります。本機はDTLAのコピー・プロテクション技術（Revision 1.3）に対応しています。
- i.LINK端子の4ピン－6ピン変換アダプターは信号の送受信が保証できないため、使えません。

本機のi.LINK端子にはロック式のi.LINKケーブルも使えます。

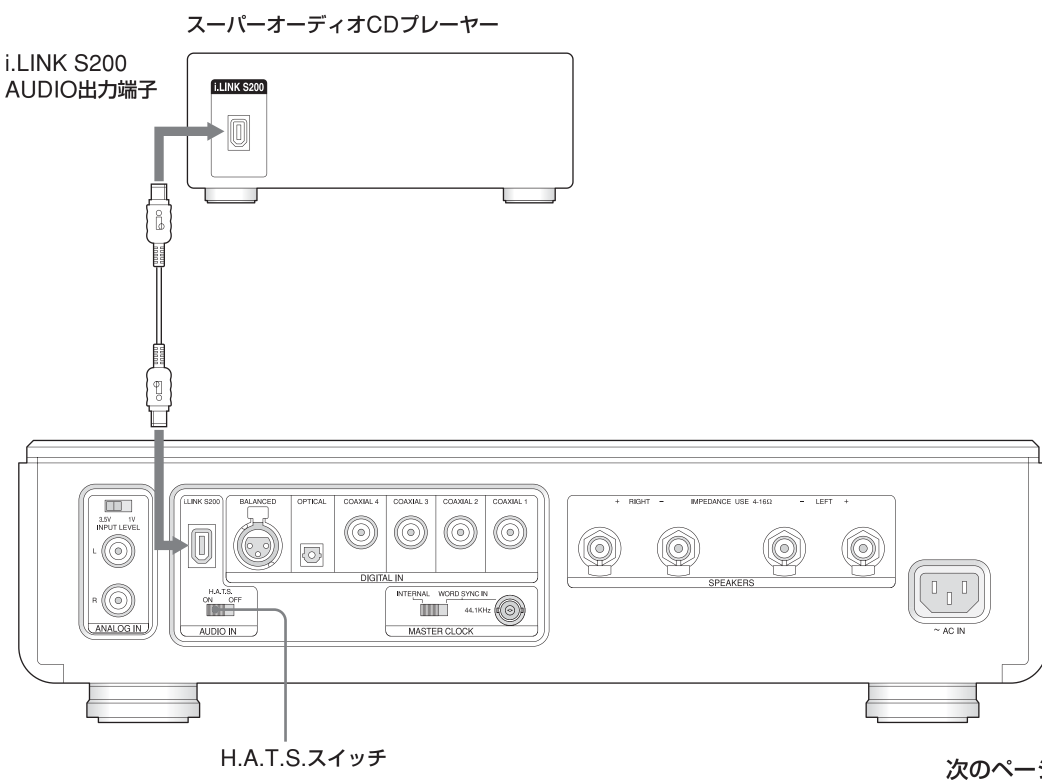
i.LINKでの通信が確立するには

i.LINK接続では、入力を選択してから通信が確立するまで約3秒かかります。これは接続する機器が相互認証を行うためです。通信が確立するとi.LINKランプが点灯します。

著作権について

著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピー・プロテクション技術が採用されています。
この技術のひとつは、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送における著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。このDTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像／音声／データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。
また、DTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでのデジタルの映像／音声／データのやりとりができない場合があります。

- i.LINKは、IEEE1394-1995とIEEE1394a-2000を示す呼称です。
  i.LINKとi.LINKロゴ“ ”は、ソニー株式会社の商標です。



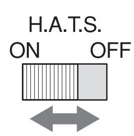
次のページにつづく

マルチチャンネルについて

マルチチャンネルスーパーオーディオCDディスクには、マルチチャンネルエリアと2チャンネルエリアが記録されています。それぞれのエリアは制作者の意図が反映され、チャンネル数に合わせて最適なミキシングなどが施されています。本機は2チャンネルアンプとして制作者の意図を忠実に再現することを重視しているため、マルチチャンネル信号を2チャンネルにして出力することは行っていません。

高音質で聞く（H.A.T.S.（High quality digital Audio Transmission System）機能）

H.A.T.S.スイッチを「ON」にすると、i.LINKから入力されたデジタルオーディオ信号を一時的にバッファに蓄え、精度の高いタイミングでバッファから信号を読み出しアナログ信号に変換します。このため、デジタルオーディオ信号転送時に生じるジッター（信号を読み取るタイミングの時間軸のゆれ）の影響を受けなくなります。この機能を使わないときはH.A.T.S.スイッチを「OFF」にします。



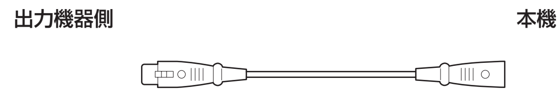
ご注意

- 電源をオフにした状態で切り換えてください。電源オン状態ではH.A.T.S.機能は切り換わりません。
- H.A.T.S.機能の性質により、再生機の操作（例：再生ボタンを押す、停止ボタンを押す、一時停止ボタンを押す、など）をしてから音が出るまで少し時間の遅れがあります。また、音楽ソースによっても遅れる時間は異なります。
- H.A.T.S.機能は、H.A.T.S.機能に対応する機器にのみ働きます。
- H.A.T.S.機能は、1台の入力機器から選ばれているときに働きます。これは、プログラムソースからのデジタル音声信号の転送速度を入力機器が調節するのに対して、i.LINKの経路内では、適切な信号転送のため、ある機器からのオーディオ信号を受け取る機器は1つだけ、と決まっているからです。

BALANCED端子に接続する

バランスデジタル出力端子のある機器と接続します。
別売りのバランスデジタル接続コードを使います。

バランスデジタル接続コード（別売り）

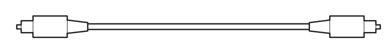


サンプリング周波数96kHz、量子化ビット数24bitまでの信号が入力できます。

OPTICAL端子に接続する

光デジタル出力端子のある機器と接続します。
別売りの光デジタル接続コードを使います。
OPTICAL端子を使うときは、光デジタル接続コードのプラグをカチッと音がするまでまっすぐに差し込みます。

光デジタル接続コード（別売り）

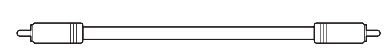


サンプリング周波数96kHz、量子化ビット数24bitまでの信号が入力できます。

COAXIAL端子に接続する

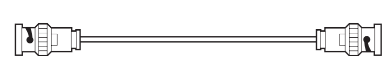
同軸デジタル出力端子のある機器と接続します。COAXIAL端子はCOAXIAL 1～COAXIAL 4の4系統があります。
別売りの同軸デジタル接続コードを使います。

同軸デジタル接続コード（別売り）



COAXIAL 1端子はBNC端子です。
別売りのBNC同軸デジタル接続コードを使います。

BNC同軸デジタル接続コード（別売り）

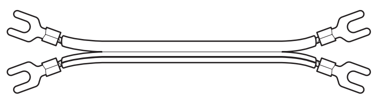


サンプリング周波数96kHz、量子化ビット数24bitまでの信号が入力できます。

スピーカーを接続する

スピーカーのスピーカー端子と本機のSPEAKERS端子を接続します。
別売りのスピーカーコードを使います。
安全で確実な接続のために、スピーカーコードは端子に合うYラグで端末処理することをおすすめします。

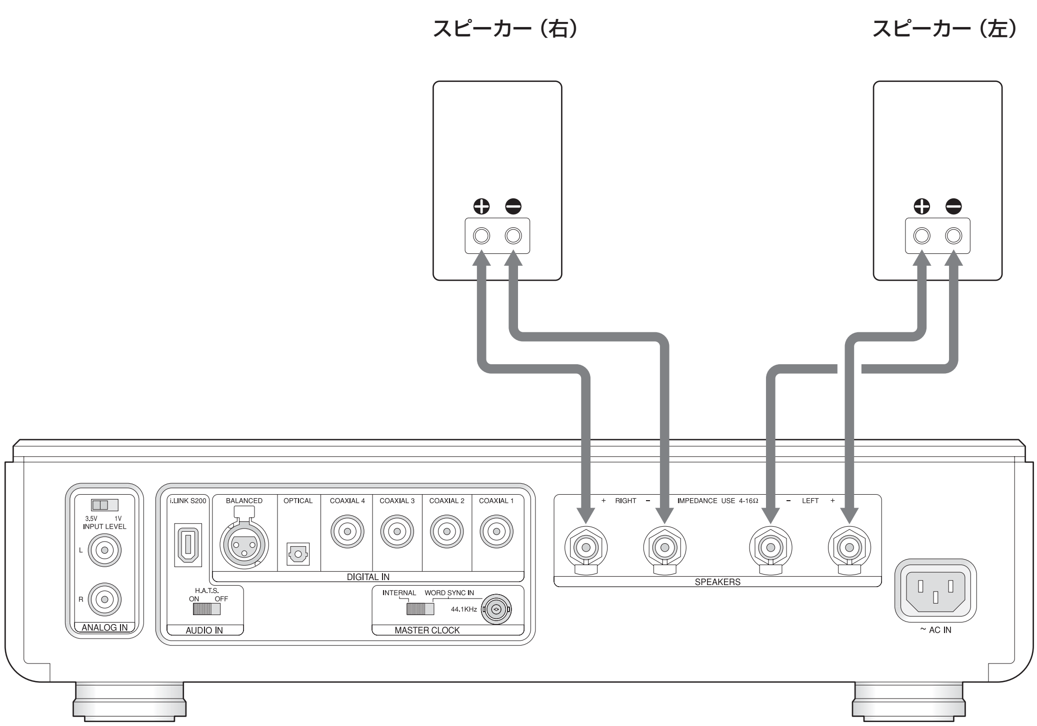
スピーカーコード（2）（別売り）



スピーカー接続時のご注意

- 左スピーカーはLEFT端子に、右スピーカーはRIGHT端子に接続します。
  スピーカーコードはスピーカー端子の極性に合わせて＋は＋同士、－は－同士で接続します。スピーカーコードは線やマークのある側を＋と決めておくと、極性を間違えることがありません。
- 実測インピーダンスが4～16Ωのスピーカーを使ってください。インピーダンスが極端に低いスピーカーを接続すると、本機の保護回路が働くことがあります。
- スピーカーの出力を本体シャーシやアースに接触させないでください。本機の出力はフルブリッジ（BTL）回路のため、＋側、－側共にシャーシに対して電位があり、シャーシやアースに接触すると保護回路が働きます。

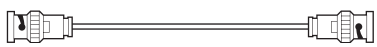
本機のスピーカー端子には、バナナプラグも接続できます。



外部クロック機器を接続する

外部クロック機器を本機のWORD SYNC IN端子に接続して、マスタークロック信号を入力できます。
別売りのBNC端子の同軸デジタル接続コードを使います。
入力できるクロック信号は、44.1kHzのTTLレベル矩形波です。

BNC同軸デジタル接続コード（別売り）

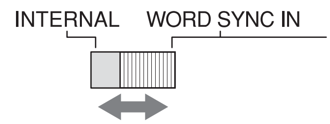


ご注意

外部クロックを有効にするには、背面のMASTER CLOCK切換スイッチをWORD SYNC INに設定する必要があります。詳しくは14ページをご覧ください。

マスタークロックを切り換える

本機は外部クロック入力を備え、外部クロック機器を接続して動作させることもできます。
使用状況に応じて、MASTER CLOCK切換スイッチを切り換えてください。

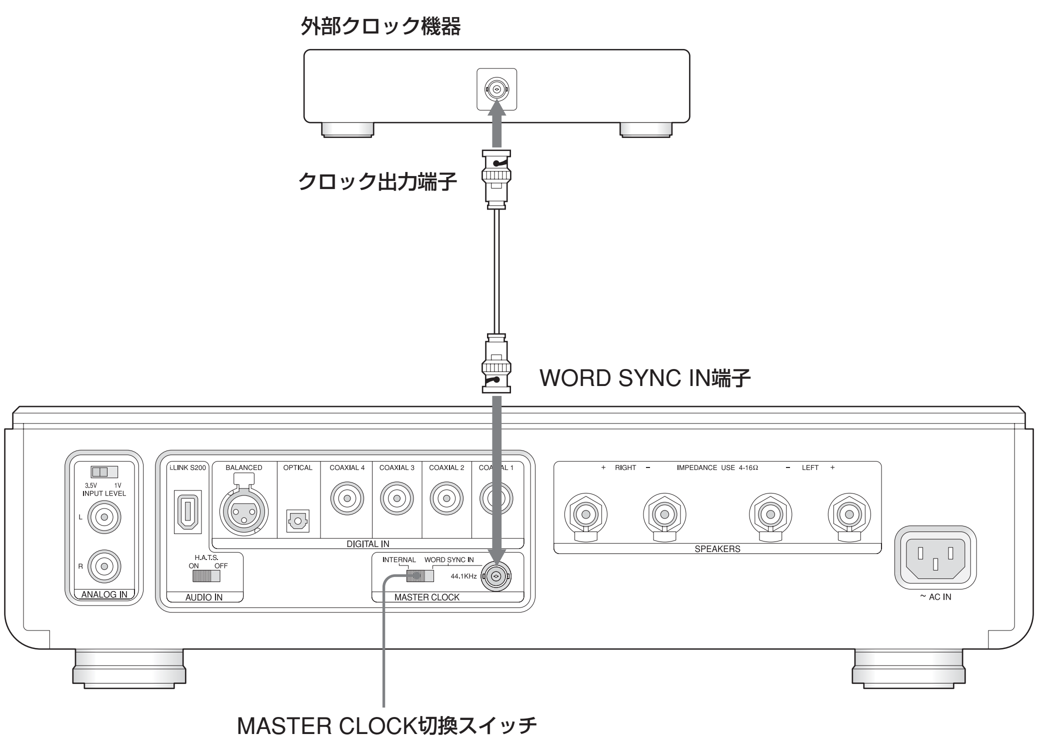


外部クロック機器を使う場合

WORD SYNC INにします。

ご注意

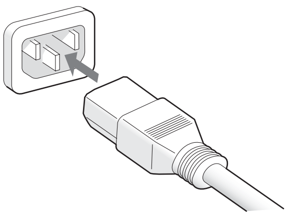
電源をオフにした状態で切り換えてください。その後電源をオンにすると、指定したマスタークロックに切り換わります。
電源がオンの状態で切り換えても、もう1度電源を入れ直すまでマスタークロックは切り換わりません。



電源コードを接続する

次のことを確認してから、電源コードを接続してください。
- すべてのケーブルを接続する。
- POWERスイッチがオフになっている。

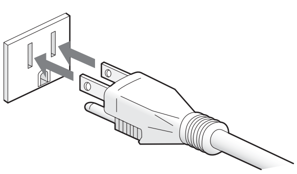
付属の電源コードを本体のAC IN端子につないでから、壁のコンセントにつなぎます。



電源コードのプラグについて

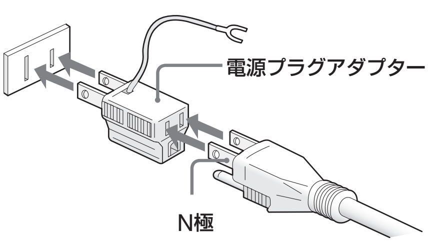
本機は、3極プラグの電源コードになっています。3極プラグが使えないときは、接続するコンセントの形状に合わせて、付属の電源プラグアダプターか市販のプラグアダプターを使ってください。

3極コンセントの場合



2極コンセントの場合

- **コンセントの差し込み口に長短の違いがある場合：**
  2つのブレードの幅が違う付属の電源プラグアダプターを使ってください。



- **コンセントの差し込み口が同じ長さの場合：**
  市販のプラグアダプターを使ってください。
  このとき市販の検電ドライバーなどを使って差し込み穴の極性をチェックできます。検電ドライバーを差し込んでネオンランプが点灯しない方がアース側です。上の図の「N側」のブレードをアース側に差し込みます。

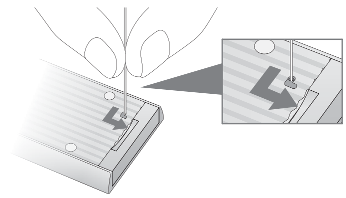
ご注意

本機の電源コードはなるべく壁のコンセントに接続してください。
テーブルタップを使う場合は、容量に余裕のあるテーブルタップを使ってください。

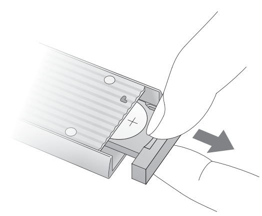
リモコンの電池を交換するときは

電池の残りが少なくなると、リモコンで操作できる距離が短くなります。これを目安にして、新しい電池に交換します。

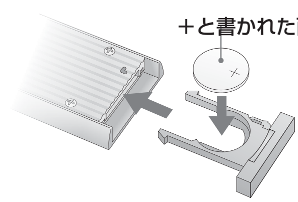
1 クリップなどの細い針金をリモコン裏面の穴に奥までしっかり差し込み、矢印の方向に動かします。



2 電池ケースを引き出し、古い電池を取り外します。



3 リチウム電池CR2025を、＋と書かれた面を上にして置いた後、電池ケースを元に戻します。



ご注意

- リチウム電池を誤って飲み込むことのないよう、電池は特に幼児の手の届かないところに置いてください。
- 万一電池を飲み込んだ場合には、直ちに医師と相談してください。
- リモコン受光部に、直射日光や照明器具の強い光が当たると、リモコン操作ができなくなることがあります。

各部の名前と基本操作

この章では、各部の名前と基本機能、基本操作を説明します。

本体前面

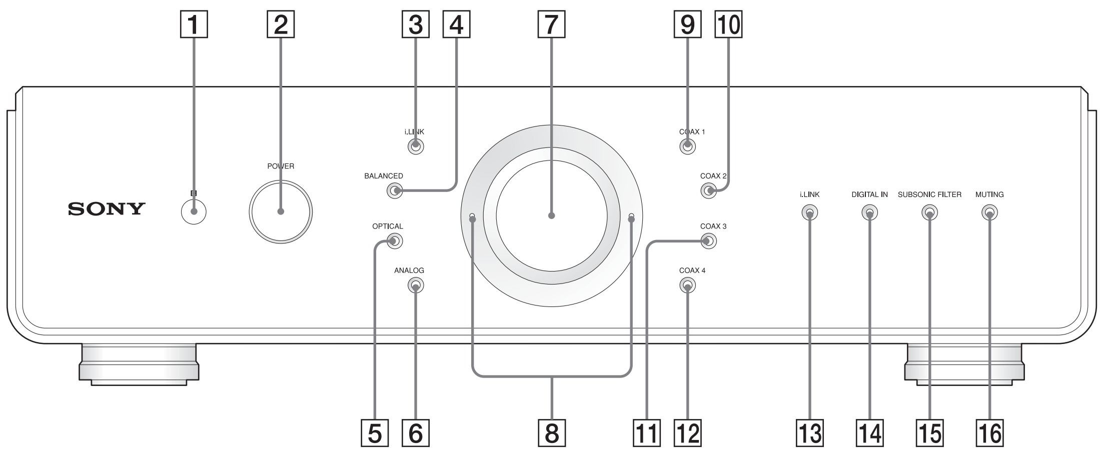
1 **リモコン受光部**
リモコンからの信号を受信します。

パワー
2 POWER**スイッチ**
本機の電源をオン／オフします。
電源を入れるとすべてのランプが薄く点灯し、スタンバイ状態になります。数秒後、選ばれた入力のランプが明るく点灯すると、本機が使えます。
スピーカーの破損を防ぐため、電源を入れる前にVOLUMEつまみを最小にしておいてください。

アイリンク
3 i.LINK**ボタン**（7ページ）
i.LINK入力に切り換えます。
切り換わると、ランプが明るく点灯します。

バランス
4 BALANCED**ボタン**（8ページ）
バランスデジタル入力に切り換えます。
切り換わると、ランプが明るく点灯します。

オプチカル
5 OPTICAL**ボタン**（8ページ）
光デジタル入力に切り換えます。
切り換わると、ランプが明るく点灯します。



アナログ
6 **ANALOGボタン**（6ページ）
アナログ入力に切り換えます。
切り換わると、ランプが明るく点灯します。

ボリューム
7 **VOLUMEつまみ**
音量を調節します。
選んだ入力につないだ機器の電源を入れてから、操作してください。
ある高さまで本体のVOLUMEつまみで調整をした後、リモコンのVOL. ADJUST＋、－ボタンで＋、－6dBの微調整ができます（15ページ）。その場合、つまみの横のランプが点灯しますので、元の位置から上がったか下がったか確認することができます。本体のVOLUMEつまみをもう一度回すとランプは消灯し、リモコンの微調整は解除されます。

8 **ボリューム微調整LEDランプ**
リモコンで、本体のボリューム位置より音量を上げると右のLED、下げると左のLEDが点灯します。本体ボリュームと同じ音量になる、または本体のVOLUMEつまみを動かすと両方とも消灯します。

コアキシャル
9 **COAX 1ボタン**（8ページ）
同軸デジタル入力1に切り換えます。
切り換わると、ランプが明るく点灯します。

10 **COAX 2ボタン**（8ページ）
同軸デジタル入力2に切り換えます。
切り換わると、ランプが明るく点灯します。

11 **COAX 3ボタン**（8ページ）
同軸デジタル入力3に切り換えます。
切り換わると、ランプが明るく点灯します。

12 **COAX 4ボタン**（8ページ）
同軸デジタル入力4に切り換えます。
切り換わると、ランプが明るく点灯します。

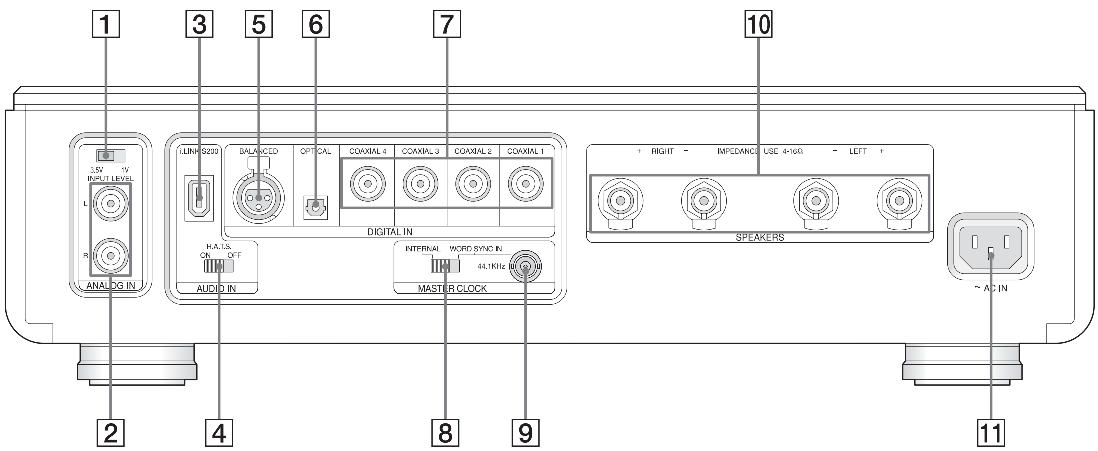
13 **i.LINKランプ**（7ページ）
i.LINK入力が選ばれて、通信が確立すると点灯します。
通信が確立するまで、約3秒かかります。

デジタル　イン
14 **DIGITAL INランプ**
デジタル入力が選ばれて、信号がロックすると点灯します。

サブソニック　フィルター
15 **SUBSONIC FILTERボタン**
4Hz以下の信号をカットします。
機能が選ばれると、ランプが明るく点灯します。

ミューティング
16 **MUTINGボタン**
音量を20dB下げます（完全には音は消えません）。
機能が選ばれると、ランプが明るく点灯します。

本体後面



1 **INPUT LEVELスイッチ**（6ページ）
接続する機器に応じて入力感度を切り換えます。

2 **ANALOG IN端子**（6ページ）
オーディオ機器のライン出力端子と接続します。

3 **i.LINK S200 AUDIO IN端子**（7ページ）
対応するi.LINK機器のi.LINK S200 AUDIO OUT端子と接続します。

4 **H.A.T.S.スイッチ**（7、8ページ）
「ON」にするとH.A.T.S.機能が働き、i.LINKから入力されたデジタルオーディオ信号転送時に生じるジッター（信号を読み取るタイミングの時間軸のゆれ）の影響を受けなくなります。

5 **DIGITAL IN（BALANCED）端子**（8ページ）
デジタル機器のバランスデジタル出力端子と接続します。

6 **DIGITAL IN（OPTICAL）端子**（8ページ）
デジタル機器の光デジタル出力端子と接続します。

7 **DIGITAL IN（COAXIAL 1〜4）端子**（8ページ）
デジタル機器の同軸デジタル出力端子と接続します。

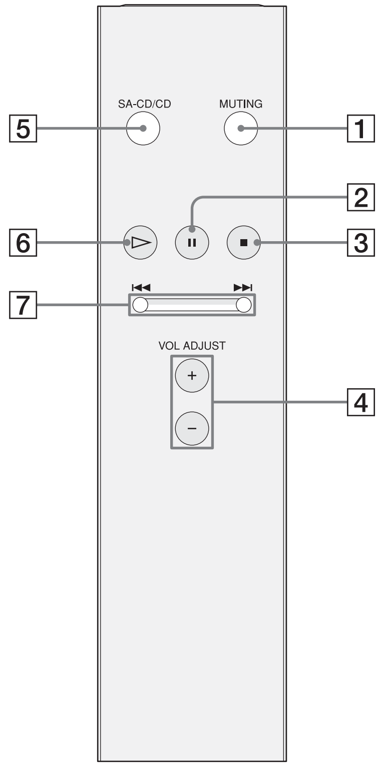
8 **MASTER CLOCK切換スイッチ**（10ページ）
動作させるマスタークロックを選びます。
外部クロック機器を接続して使う場合はWORD SYNC INにします。

9 **WORD SYNC IN端子**（10ページ）
BNCデジタル接続コードで外部マスタークロック機器と接続します。

10 **SPEAKERS端子**（9ページ）
スピーカーのスピーカー端子と接続します。

11 **AC IN端子**（11ページ）
付属の電源コードを接続します。

リモコン



1 MUTING（ミューティング）ボタン
音量を20dB下げます（完全には音は消えません）。
機能が選ばれると、ランプが明るく点灯します。

2 **❚❚ボタン**（リモコンのみ）
再生を一時停止します。もう一度押すと解除されます。

3 **■ボタン**（リモコンのみ）
再生を停止します。

4 VOL.（ボリューム） ADJUST（アジャスト）＋／－ボタン（リモコンのみ）
本体のVOLUMEつまみで調整した後で＋／－6dBの微調整をします。本体のVOLUMEつまみをもう一度回すとリモコンの微調整は解除されます。

ご注意
本体のVOLUMEつまみが最も左の位置になっているときにVOL. ADJUST＋ボタンを押しても＋6dBしか音量が上がりません。

5 SA-CD/CD**ボタン**（リモコンのみ）
スーパーオーディオCDのハイブリッドディスクを再生するときに、HD（スーパーオーディオCD）レイヤーとCDレイヤーを切り換えます。通常はHDレイヤーが優先して再生されます。

6 **▷（再生）ボタン（リモコンのみ）**
再生を始めます。

7 **⏮/⏭（頭出し）ボタン（リモコンのみ）**
⏮は前の曲（再生または再生一時停止中は再生中の曲）を、⏭は次の曲を頭出しします。繰り返し押すか、押したままにすれば、さらに前後の曲を頭出し選曲できます。

その他

この章では、本機を使う上での参考として役立つ情報を説明します。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。
（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使うとき、近くに置くと、ノイズが入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう1度点検してください。また、「接続」（5ページ）をご覧になり、もう1度接続を点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

どの音源を選んでも音が出ない。

➡ 本機と選んだ機器の電源が入っていることを確認する。
➡ VOLUMEつまみが最も左の位置になっていないことを確認する。
➡ スピーカーおよび各機器が正しく接続されていることを確認する。

選んだ機器から音が出ない。

➡ 選んだ機器が本機の入力端子に正しく接続されていることを確認する。
➡ 接続コードがしっかり差し込まれていることを確認する。

VOLUMEつまみの周りのランプが点滅して音が出ない。

➡ アンプが熱くなっている。本機の電源を切り、天板などアンプの周りに空間を確保し、しばらく放置してから再度電源を入れる。
➡ スピーカーコードがショートしている可能性がある。本機の電源を切り、スピーカーコードの接続を確認してから再度電源を入れる。

音が出ない、ほとんど聞こえない。

➡ スピーカーおよび各機器が正しく接続されていることを確認する。
➡ 正しい入力が選ばれていることを確認する。
➡ MUTINGボタンを押して、ミュート機能を解除する。
➡ 本体のVOLUMEつまみが最も左の位置になっていて、リモコンで調整しようとしていないか確認する。リモコンのVOL. ADJUST＋ボタンだけでは+6dBしか上がりません。

i.LINK機器の音が出ない。

➡ 本機に対応したi.LINK機器が接続されていることを確認する。
➡ スーパーオーディオCDプレーヤーのマルチチャンネル／2チャンネル切り換えを、「2チャンネル優先」に設定する。

アナログ入力の音が歪む。

➡ 入力信号のレベルが大きすぎる。INPUT LEVELスイッチを3.5V側に切り換える（6ページ）。

ハム音（ジーという音）またはノイズがひどい。

➡ スピーカーおよび各機器が正しく接続されていることを確認する。
➡ 接続コードがトランスやモーターから離れていること、また、テレビや蛍光灯からは少なくとも3m以上離れていることを確認する。
➡ テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。
➡ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。

リモコンで操作できない。

➡ リモコンと本体のあいだに障害物がないか確認する。本機が見える位置からリモコン操作する。
➡ 本機のリモコン受光部に向けて操作しているか確認する。
➡ リモコンの電池を新しい電池と交換する。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導にもよるものです。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型式：TA-DR1a
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日

その他

主な仕様

アンプ部

定格出力 150W+150W（8Ω）
300W+300W（4Ω）

適合スピーカーインピーダンス
4Ω〜16Ω

全高調波ひずみ率 0.15%以下

周波数特性（パワーブロック）
10Hz〜50kHz（±3dB）

入力（アナログ） 入力インピーダンス：20kΩ
入力感度：1V/3.5V

入力（デジタル） BALANCED：
入力インピーダンス：75Ω
COAXIAL：
入力インピーダンス：75Ω

S/N比 90dB以上

i.LINK部

ピン数 6ピン

転送スピード S200（最大データ転送速度 200Mbps）

伝送プロトコル A／Mトランスミッションプロトコル

信号フォーマット（入力）
- スーパーオーディオCD*
（DSD PLAIN、2チャンネルのみ）
- 2チャンネルリニアPCM
（IEC 60958-3）
サンプリング周波数　44.1kHz

* DTLAのコピー・プロテクション技術（Revision 1.3）に対応

電源・その他

電源 AC 100V、50/60Hz

消費電力 350W

最大外形寸法 456×125×430mm
（幅／高さ／奥行、最大突起部含む）

質量 約20.7kg

付属品

5ページをご覧ください。

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は「JIS C61000-3-2」適合品です。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ 0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ 0466-31-2531

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」＋「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in Japan